

事業報告

(1) 事業の経過及びその成果

当事業年度は、世界規模で広がる新型コロナウイルスの影響を受けた厳しい経営環境で推移しました。国境を越えた人の移動の制限によってインバウンド需要は消失し、感染拡大防止のための営業自粛や行動制限による国内景気の下押しは、現在も続いています。

公社におきましても、駐車場周辺集客施設の休業・閉鎖や、外出自粛による影響は著しく、基幹事業である駐車場事業の売上が減収に転じたこともあり、当期経常収益は21億2千800万円となりました。収支の改善が厳しい駐車場の閉鎖やコストの見直し、その他管理部門における不要不急の経費投入を控え利益の確保に努めました。が、当期正味財産増減額は▲2億3千100万円となりました。

令和2年4月7日～

1回目の緊急事態宣言発出（大阪府を含む7都府県）

令和2年4月7日～令和2年5月17日

元離宮二条城の休城に伴う元離宮二条城駐車場の閉鎖

令和2年4月16日～

全都道府県が緊急事態宣言対象

令和2年4月29日～令和2年5月17日

公園併設駐車場の閉鎖

（岡崎公園駐車場・梅小路公園駐車場・京都市円山駐車場・くるっとパーク宝が池公園狐坂）

令和2年4月29日～令和2年6月18日

京都市営観光駐車場の閉鎖（清水坂観光駐車場・銀閣寺観光駐車場・嵐山観光駐車場・高雄観光駐車場）

令和2年5月21日

京都府・大阪府の緊急事態宣言解除

令和3年1月14日～令和3年2月28日

京都府・大阪府を対象に含む2回目の緊急事態宣言

§ 1 全般の状況

経常収益

21 億 2 千 8 百万円

駐車場事業全般の売上が落込み、減収となりました。
前年度比▲10.1パーセント（▲2億3千9百万円）

当期
正味財産
増減額

▲2 億 3 千 1 百万円

コストの見直し、その他管理部門における不要不急の経費投入を控え利益の確保に努めましたが、赤字決算となりました。

正味財産

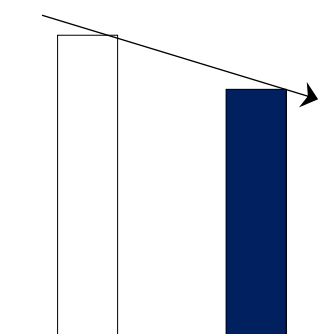
15 億 3 千 4 百万円

正味財産は期首から13.1パーセント減少となりました。

駐車場事業 (駐車場・駐輪場)

売上高

18 億 9 千 5 百万円
(前年度比 12.7% 減)



経常利益

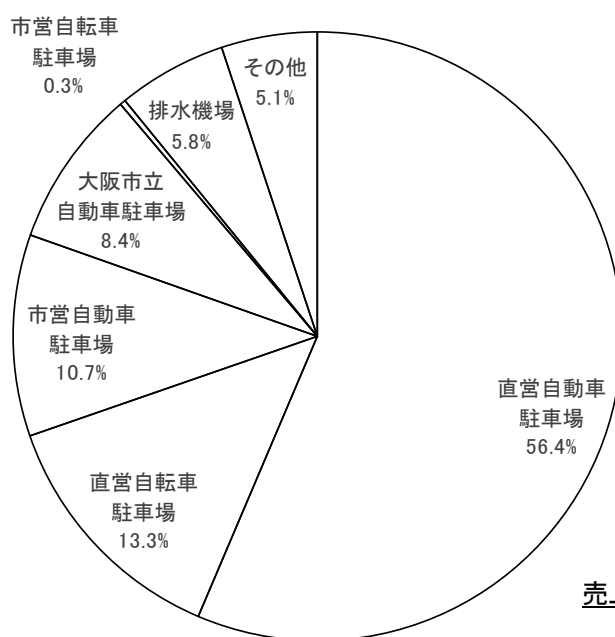
3 千 8 百万円
(前年度比 90.7% 減)

駐車場事業は、有人管理の駐車場や駐輪場、無人機械式コインパーキングによる直営（自動車・自転車）駐車場のほか、京都市や大阪市から受託管理する市営（自動車・自転車）駐車場を運営することで全売上高の 9 割を占める公社の基幹事業です。

令和 2 年度については、51 場の新規駐車場・駐輪場を開設しました。

公募物件では、国土交通省の入札占用計画の審査に応募し、令和 2 年 4 月に国道 43 号高架下駐車場（大阪市 21 箇所）の管理について選定されました。また、これまでの大阪市での管理実績を踏まえ、大阪市から天王寺公園バス駐車場の管理事業者公募について選定を受け、令和 3 年 2 月から管理運営を行っています。

なお、大阪市から大阪市立十三駐車場等 4 駐車場を、京都市からは京都市清水坂観光駐車場等 6 駐車場及び北山駅自転車駐車場を引き続き受託管理しています。



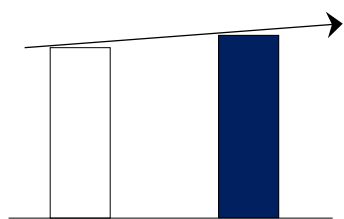
売上構成

排水機場事業

売上高

1 億 2 千 4 百万円

(前年度比 1.0% 増)



排水機場事業は、局地的な集中豪雨等から、市民の生命と財産を守るために排水機場（13箇所）を管理する事業です。

本川から支川への逆流を防止するゲートを閉めた際に、支川が溢れないよう排水ポンプで強制的に支川の水を本川に排出する施設の維持管理及び運転監視業務を行っています。

令和2年度末で受託管理の更新期限を迎えましたが、令和3年度からも引き続き保守管理及び監視業務を受託しています。

レンタル事業

(レンタサイクル
・
シェアサイクル)

売上高

3 百万円

(前年度比 15.1% 減)



車をとめた駐車場から自転車で移動する回帰型の「レンタサイクル(ブランド名:るぼるぼ)」は、観光客による利用が多く、新型コロナウイルスの影響を受けて前年度比およそ4割の減収となりました。

これに対して、市内に多数存在するポート間を移動する乗捨て可能な「シェアサイクル(ブランド名:P i P P A)」は、コロナ禍では通勤・通学の人混みを避けることができるため日常のご利用いただくことが多くなったことで増収となり、レンタル事業全体としては約15パーセントの減収にとどまりました。

§ 3 企業価値向上に向けた取り組み

持続可能な社会の構築に向け、SDGs に賛同し、公社の事業全体を通じて、環境と景観に配慮した事業活動を行っています。

また、京都に本社を置く公社として京都議定書の趣旨に賛同し、従前から「京（みやこ）のみどりの駐車場パートナー制度」に基づく緑化推進にも取り組んでおります。

当事業年度においては新型コロナウイルスの影響により、予定しておりました緑化推進工事の実施を見送らざるを得ませんでした。太陽光発電設備を利用した自然エネルギーの活用、電気自動車充電設備を設置した駐車スペース、KES環境マネジメントシステム認証の取得などにつきましては、引き続き取り組んでおり、駐車場照明のLED化、アイドリングストップの徹底に向けた周知活動等、これからも環境への配慮を意識した事業活動を進めていきます。

なお、当事業年度は、残念ながらイベント等の開催自粛のため、毎年開催しております「交通安全フェスタ」を開催することができませんでしたが、京都市の御池通スポンサー花壇事業、地元自治会の活動をはじめ、祇園祭や時代祭、京都・東山花灯路及び嵐山花灯路等、地域行事に対する協賛ほか社会貢献について、これからも継続的に取り組んでいきます。

(2) 設備投資の状況

当事業年度は、新規駐車場・駐輪場の開設のために必要な駐車機器、看板、舗装等についての支出（3,400万円）のほか、ホームページでの駐車場案内やバス予約システムを充実させるための支出（300万円）、事務のシステム化に伴うパソコンその他の固定資産についての支出（300万円）、合わせて4,000万円を投資しました。

(3) 資産及び損益の状況の推移

(単位 千円)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
経常収益	2,225,194	2,368,442	2,128,525
当期正味財産増減額	△ 161,779	59,480	△ 231,451
正味財産	1,706,590	1,766,070	1,534,618
資産合計(総資産)	2,667,415	2,416,390	2,382,227

(4) 今後の取り組み

当公社においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年度比2億3千万円以上の減収となり大きな影響を受けております。

現在も依然として感染症の影響は続き、伸び悩む国内需要、消失したインバウンド需要と厳しい状況にあります。敢えて組織改革と事業展開を見直す機会にあるものと捉え、この危機を耐えて乗り切ること、そして、来たるべき復活の時を見据えた対策として、既存駐車場の収益改善のために、従来よりも短期的に不採算駐車場からの撤退を実施し、回収した機器をより収益見込の高い駐車場に投入することや、本社管理部門における不要不急の経費投入を控えること、駐車場管理事務所における配置人員の削減、役員報酬・管理職手当に加え従業員賃金も含めた人件費削減の可能性等を視野に入れた見直しを実施していきます。

なお、感染拡大に起因する市場変動要素が公社の事業全体に与える影響の速さと大きさを考慮して、当事業年度末に手持ち資金を確保するため、2億4千万円の資金調達をしました。今後も手元流動資金を確保しながら事業運営にあたります。

また、ワクチン接種率の向上がもたらす経済活動の活性化や、回復の兆しを見せつつある国内旅行需要をふまえ、公社ブランド「くるっとパーク」を関西圏で積極的に展開していきます。一方で、当事業年度から運営を開始した国道43号高架下駐車場等の定期駐車場収入や市営駐車場、排水機場管理業務等の公募事業の受託料収入が比較的安定的であることから、こうした事業についてもシェア拡大を目指す方針です。

営業・サービス面では、国・地方自治体の対策等に則った対応をもって施設管理を行い、感染症対策及び経済再生のための対策等、今後の社会状況を注視しながら事業に取り組んでいきます。